

1. 海外で教える（１） 国際交流基金派遣専門家経験者

国際交流基金日本語国際センター 専任講師
古川 嘉子（ふるかわ よしこ）さん



<プロフィール>

1980年代に米国において、個人教授等で日本語教育を開始しました。1986～87年 国立国語研究所日本語教育長期専門研修を修了しました。日本語学校、大学での非常勤の後、1990年より現在の職場で主に教師教育に関わっています。派遣専門家としては、1996年～97年豪州・シドニー日本語センター主任講師、2004年～07年インドネシア・ジャカルタ日本文化センター主任講師として勤務経験があります。そのほかには、様々な国のセミナーやワークショップを行ってきました。

<メッセージ>

何回かの海外での日本語教育経験を経て、一緒に教える現地の先生たち、学生たちとの関わりがとても楽しく実りの多いものでした。教室で教えるということもありましたが、現地の先生たちと教材を開発したり、教師研修を実施したり、国家カリキュラムの策定プロセスに関わるような貴重な経験もできました。もちろん、その中で様々な困難も経験しましたが、そこでの対処の中で日本語教育をめぐる課題に立ち向かうための方法を学び、力を身につけてきた気がします。海外の日本語教育はそれぞれの社会・状況とのつながりで展開しています。日本語教師というのはその中に自分の身をおいて、周囲とともに自身の可能性を拓いていける仕事だと考えています。

2. 海外で教える（２） JICA 青年海外協力隊経験者

立教大学 教育研究コーディネーター
高嶋 幸太（たかしま こうた）さん



<プロフィール>

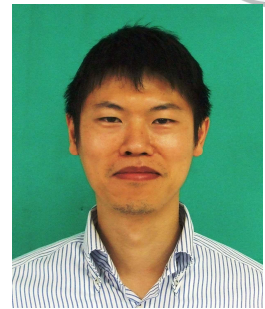
東京学芸大学教育学部日本語教育専攻卒業、英国グリニッジ大学大学院 MA Management of Language Learning 修了。海外では JICA 青年海外協力隊の派遣国モンゴル、留学先のイギリスでも日本語を教える。日本国内では大手企業の外国人社員に対する日本語教育にも携わる。また、立教大学や早稲田大学で日本語教育に従事する一方で、社会に日本語教育を伝えるための講演・セミナー活動も行う。専門は、教師教育、第二言語習得、海外日本語教育など。『その日本語、どこがおかしい？ 日本語教師のための文型指導法ガイドブック』（国際語学社、共著）、「【連載】ネイティブ英語話者の大疑問！この日本語、ヘンですか？」『英語教育 2017年4月号～』（大修館書店、単著）など著書・論文、メディア掲載多数。個人サイト『世界の日本語図書室』（<https://nihongo-toshoshitsu.jimdo.com/>）運営。

<メッセージ>

これまで人種や民族、国籍、宗教などバックグラウンドが異なっても、それらを超えて学習者同士が教室で信頼関係を構築していく場面を幾度となく目にしてきました。今後も、学習者が「日本語は楽しい」「日本語学習は面白い」と思えるような環境づくりや授業運営に心血を注ぎたいと思います。そして、本セッションが日本語という言語や日本語教育の世界に興味を持つ1つのきっかけになれば幸いです。

3. 外国人研修生に教える

一般財団法人海外産業人材育成協会（AOTS）
日本語教育センター 職員
杉山 充（すぎやま みつる）さん



<プロフィール>

東京学芸大学で日本語教育を専攻。在学中より地域の日本語教室にて日本語教育に携わる。卒業後、日本語講師として青年海外協力隊に参加。帰国後は、日本語学校で日本語講師をしながら、早稲田大学大学院修士課程に進学。一度、日本語教育から離れ、一般企業で海外営業に従事。29歳でAOTSに転職。AOTSでは日本語教育センターに所属。日本語研修コースのカリキュラム開発等に携わる。現在、39歳。

<メッセージ>

AOTSでは、技術研修生やEPAのインドネシアやフィリピンの看護師・介護福祉士候補者への日本語研修を行っています。1）技術研修生は、技能実習生とは異なり、日本での滞在は1年未満と短く、企業では「働く」のではなく、「研修」を行います。日本語は、企業での研修の前に、AOTSの研修センターで、6週間もしくは13週間の短期間で学習します。研修現場ですぐに日本語が「使える」ように、授業では話す・聞く練習を重視し、研修生が実際に遭遇する場面を想定した「活動」や「タスク」、日本語ボランティアとの実践会話、教室外でのグループ活動等も取り入れています。2）EPAの看護師・介護福祉士候補者には6ヶ月の日本語研修を実施しています。生活や就労に必要な総合日本語と、看護や介護に特有な専門日本語をバランスよく学ぶカリキュラムを採用しています。自律学習能力の養成も行います。技術研修生も看護師・介護福祉士候補者も、日本語の能力が研修や就労での活動に直結しますので、学習意欲も高く、大変熱心に日本語学習に取り組んでいます。

4. 技能実習生に教える

公益財団法人国際研修協力機構（JITCO） 専門役
黒羽 千佳子（くろは ちかこ）さん



<プロフィール>

愛知県高等学校国語科教諭を経て以前から興味があった日本語教育へ。東京外国語大学日本語学科卒業、同大学院博士前期課程（日本専攻）修了。国外では国際交流基金派遣日本語教育専門家、国内では大学非常勤講師、外資系社員研修講師等の他、海外技術者研修協会（AOTS 現：海外産業人材育成協会）でEPA看護師候補生向け教材開発に携わる。2008年より現職。技能実習生の日本語指導員対象のセミナー実施や教材提供等に関わる。

<メッセージ>

技能実習生入国直後の「講習」での日本語指導は、受入れ先の「監理団体」（約2000団体）が主に行いますが、日本語教育のバックグラウンドのない人が担当するケースが多いのが現状です。日本語教育の知識やスキルを活かせる場として、「監理団体」は魅力的な上に歓迎される職場のひとつだと思います。日本語指導にとどまらず、技能実習生の生活全般に関わっていくことに興味のある方にはご検討いただけたらと思います。また、「講習」終了後は日本語学習の義務はないのですが、技能実習生が日本語教室に通ってくるケースも多いことでしょう。彼らの当初のニーズを越えて地域の人々との交流がある例もあると聞きます。皆様からもお話を伺えたらと思います。

5. 看護・介護職希望者に教える

アークアカデミー

一カ 絵美 (いちりき えみ) さん



<プロフィール>

大学卒業後、自動車会社勤務、ニュージーランド留学を経て、帰国後の2005年にアークアカデミー日本語教師養成講座を受講。養成講座修了後同校に勤務、非常勤講師として留学生や社会人学習者への授業を担当し、2007年に専任講師となる。2011年のEPAフィリピン介護福祉士候補者への日本語研修事業で始めて介護の日本語に触れ、2012年には、ベトナムハノイにてEPA看護師・介護福祉士候補者に対する日本語研修事業の立ち上げを担当。帰国後の現在も看護・介護分野へ進む外国人への日本語教育事業を中心に従事している。

<メッセージ>

EPAベトナム候補者は日本語能力試験のN3以上に合格しないと日本へ行くことができないので、1年間の現地研修では、候補者をN3レベルまで到達させ、かつコミュニケーション力をつけることを目標にしています。0レベルからN3レベルまでに引き上げることは大変ではありますが、彼らは日本の技術を学び、将来は自国に貢献したいという気持ちを持っているので、そうした彼らの強い意欲に負けないように私も情熱をもって接してきました。

日本の高齢化社会を担ってくれる外国人への看護・介護分野の日本語研修に携われるということは非常にやりがいがあり、自分自身の勉強にもなりますし、なによりベトナムで教えていた学習者と日本で再会し、彼らの日本語と社会人としての成長を実際に感じられるというのは大きな励みになります。そのようなやりがいのある現場の状況を少しでもお伝えできたらと思っています。

6. 若者に教える

NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ (ME-net)

佐屋 麻利子 (さや まりこ) さん



<プロフィール>

現在の仕事

・多文化学習活動センター (CEMLA) 日本語教室の地域日本語教育コーディネーター

・神奈川県立高校 多文化教育コーディネーター ・神奈川県立高校 非常勤講師 (日本語・国語)

過去の仕事

・会社員 ・日本語学校 非常勤講師 ・神奈川県立高校 教員補助者

<メッセージ>

平日は外国につながる高校生に日本語授業の非常勤講師を、土曜日は CEMLA で外国につながる若者向け日本教室の地域日本語教育コーディネーターをしています。また日本語教育だけでなく、多文化教育コーディネーターとして生活支援、キャリア支援を行っています。大変なこともありますが、彼らの可能性を近くで感じることができ、逆に学ばされることも多い日々です。最近は「何を支援するか」以上に、彼らの自立のため「何をしないか」についても考えています。

7. 難民に教える

公益財団法人アジア福祉教育財団 難民事業本部
RHQ 支援センター 日本語教育相談員
山本 さやか（やまもと さやか）さん



<プロフィール>

一般企業にて勤務の後、公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）にて日本語を教え始める。これまで教えてきた対象は、ビジネスパーソン、年少者、就学生、留学生、外交官、難民など。早稲田大学大学院の修士課程では、研究のフィールドを夜間中学に据え、教員との協働による日本語教育実践を行い、日本語教育の奥深さを改めて実感。2011年10月から現職。日本語教師と難民向け日本語教育相談員の二足の草鞋で奮闘中。

<メッセージ>

みなさんは「難民」と聞いてどのようなイメージをお持ちでしょうか。日本でも以前と比べるとだいぶ「難民」についてのニュースが伝えられるようになったものの、まだあまり身近には感じにくいかもしれません。日本にはインドシナ難民、条約難民、第三国定住難民の3つのカテゴリーに属する難民の方々が暮らしています。実はみなさんのお住まいの地域に、住民の一員として暮らしているかもしれません。難民向け定住支援プログラムにおける日本語教育の様子と共に、アフターケアとしての日本語支援、広く教育面でのサポートについてもお伝えできたらと思います。

8. 視覚に障害のある人に教える

神田外語大学留学生別科 専任講師
北川 幸子（きたがわ さちこ）さん



<プロフィール>

京都外国語大学外国語学部日本語学科を卒業後、シンガポールの日本語学校に就職。帰国後、早稲田大学大学院日本語教育研究科に入学。専門は語彙教育。修士課程修了後は、Grinnell Collegeや京都産業大学など、国内外の高等教育機関において日本語を教える。研究員として勤務していた京都外国語大学で全盲の留学生の授業外支援に関わったことをきっかけに、現在は視覚に障害のある日本語学習者への教育についても研究を行っている。

<メッセージ>

これまで10近くの教育機関で、学習目的や属性が様々に異なる学習者に日本語を教えてきました。相手が変われば、教材や教え方の工夫が必要になり、教育と並行して「内省」や「分析」、「改善」を重ねてきました。2013年の夏、点字を使用せず、PCの画面を音声で読み上げるソフトを使って学習する全盲の留学生に出会いました。最初こそとまどいしましたが、やはり相手に合ったアプローチを考え、工夫するという点では他の学習者と同じだったと思います。これまで行ってきた教育や実践研究、そこから得られたものについてお話しできればと思っています。

9. 教育委員会で生かす

武蔵野市教育委員会 教育支援課
帰国・外国人教育相談室 相談員
伊藤 正子（いとう まさこ）さん



<プロフィール>

2007 年まで 30 年間、秋田県で小学校教員として勤務。2008 年東京女子大学言語文化学科に社会人学士入学。副専攻で日本語教師の資格を取得。2008 年 3 月に卒業後、同年 5 月より帰国・外国人教育相談室で相談員として勤務。

<メッセージ>

来日時、日本語を全く話せなかった子供たちが、日本語指導を受けて半年から 1 年後に日本語で楽しそうにおしゃべりする姿を見るのはとても嬉しいものです。しかし、日常会話は取得しても学習言語の習得という大きな壁を乗り越えられず、また高校受験で思うような結果を得られずに母国に帰国してしまう子供たちもいて、そういう姿をみるのは辛いものがあります。

困難な状況にあっても一生懸命日本語を学ぶ子供たちの姿や、学校現場に入って日本語の指導に頑張る先生たちの様子などを、これから日本語教師を目指す若い皆さんにお話ししたいと思います。

10. NPO 法人で生かす

認定 NPO 法人 多文化共生センター東京 事務局スタッフ
南 江美子（みなみ えみこ）さん



<プロフィール>

埼玉県深谷市出身。大学で日本語教育を専攻した後、メキシコの州立大学で日本語教員を務める。帰国後、国内の日本語学校で勤務。

2015 年、さまざまな背景を持ちながら日本語を学ぶ人々にとっての言語を探りたいという思いから、大学院で言語社会学について学ぶ。同年から、「たぶんかフリースクール新宿校」で日本語講師として勤務。大学院卒業後、当団体事務局スタッフとして着任。多様な背景を持つ子どもたちから多くのことを学びながら、共に成長できるよう努めている。

<メッセージ>

多文化共生センター東京は、制度の狭間に置かれ、学ぶ場のない学齢を超えた外国にルーツを持つ子供たちの学びを保障するため、「たぶんかフリースクール」を運営しています。フリースクールでは、日本語や教科の学習支援、また進学サポートも行っています。教育に関しては、日々模索しつつ積み重ねていますが、課題も多くあります。また私たちは、外国にルーツを持つ子供たちと共に、その子供たちが取り巻く家庭環境、経済状況、教科学習の困難さ、受験制度などの現実にも向き合っています。そのような子供たちの姿や学びへの思いをセンターでの実践を通してお伝えし、共に考える場になればと願っています。

1 1. 社会福祉法人で生かす

社会福祉法人さぼうとにじゅういち
学習支援室コーディネーター
矢崎 理恵（やざき りえ）さん



<プロフィール>

国際基督教大学在学中に日本語教育に出会い、大学卒業と同時に青年海外協力隊参加。帰国後、アジア・アフリカ語学院、独立行政法人日本学生支援機構東京日本語教育センター等で日本語教師を続ける。新設の日本語学校の立ち上げに教務主任として関わるなどした後、中国帰国者定着促進センター、一般財団法人日本国際協力センター（JICE）、社会福祉法人さぼうと21等で、中国帰国者、日系定住者、難民等への日本語教育に携わるようになる。

<メッセージ>

「日本語教師」と「国際協力」が長年の職業選択のキーワードでした。青年海外協力隊に参加し、帰国してからの数十年は「日本語教師」として力をつけること、事務作業含めて何でもこなせる日本語教師になることを目標に日々励みました。（自分の中では「武者修行の時期」と位置付けています。）2006年、「そろそろ社会に恩返し of 時期」と考え、自身が教える場、関わる場を「学校」から「学校ではない日本語教育の場」に変えることにしました。中国帰国者や日系定住者の方とは共に日本語を学ぶ「先生」として、さぼうと21では難民の方々への日本語教育を考える「コーディネーター」として日々過ごしています。「喜怒哀楽を実感する日本語教育の場」は、面白くてたまりません！

1 2. 出版社で生かす

株式会社 アルク 出版編集部
栗山 英樹（くりやま ひでき）さん



<プロフィール>

大学在学中にワーキングホリデーでオーストラリアへ。
現地で日本語教師ボランティアを経験し、日本語教育に興味を持つ。
大学卒業後、一般企業に入社するが、日本語教師への夢が諦められず日本語教師養成講座に入学。
1年間の養成を経て、日本語教師に。
日本語学校で非常勤講師、専任講師を勤めた後、教材の開発に携わりたいとの思いから、出版社アルクに入社。現在に至る。

<メッセージ>

日本語教育とひとことで言っても、働き方や仕事の内容は様々です。
一般企業の社員、日本語教師、日本語教育関連書籍の編集者として得た経験から、日本語教育への関わり方、仕事内容の一端をご紹介します。